

## 沖縄に適したチューリップ栽培とその普及

一般財団法人 沖縄美ら島財団

田代 亜紀羅

### 1. はじめに

亜熱帯気候に分類される沖縄では、温帯に属する他県で広く普及している緑化材料が、環境に適さないため利用されない例が多くある。チューリップもその一つで、沖縄県では秋～冬のホームセンターで球根が入手できるものの、家庭栽培より大規模な花壇は見られない。チューリップの球根は一定の低温に遭遇することで芽や根の生育が活発となるが、沖縄では冬季の低温が不十分であり、自然条件下で低温要求量を満たすことが出来ない。したがって花を咲かせるためには、球根を人工的な低温に遭遇させる必要があり、使用する球根の量に応じた冷蔵施設が必要となる。また県内での栽培ノウハウの情報がほとんど得られないため、他県での栽培情報に頼るしかなく、その点からも咲かせるのが難しい花であった。当財団は、沖縄県内において先駆けて一面に咲く大規模チューリップ花壇を実現させるため、日本で一番多くのチューリップ球根を生産している富山県花卉球根農業協同組合（以下球根組合）と連携し、栽培を行った。

### 2. 材料および方法

平成 25 年度から令和 2 年度にかけて、球根組合で生産されたチューリップ 累計 114 品種を導入した。納品する球根は、発送前に球根組合が保有する冷蔵施設にて、約 2 か月間 5℃で保管し、人工的な低温に遭遇させた。平成 25 年度は 2 万球を、それ以降は毎年 8 万球を導入した。平成 29 年度までは多品種を導入し、沖縄に適した品種の傾向を調査した。H30 年度以降には過去の試験で成績の良かった品種に加え、球根組合から推薦された品種を導入した。

球根は、球根組合から発送された 2 日後に到着し、納品当日～数日以内に植え付けた。球根の腐敗を防止するため、殺菌剤（オーソサイド水和剤）に 30 分以上浸漬し、使用した。良好な生育を促すために外子球は取り除いた。



球根の納品状況



球根と外子球

植付けは海洋博公園熱帯ドリームセンター内の露地花壇、5号ポット、長方形プランターおよび25ℓコンテナの鉢植えに行った。露地花壇では植え付け前に耕運機を3回以上かけ、透水性および通気性の良い状態にして植え付けた。鉢植えには水はけの良い市販の培養土を使用した。植え付ける深さは、深めのプランターや露地植えの場合、球根3個分の深さ（地中10cm程）で、浅いポット等の場合は、球根の頭が隠れる程度に植え付けた。葉の展開時に草姿が揃うよう、球根の向きを揃えて植え付けた。露地への植え付けは、1平方メートルに100球を基準とした。5号ポットには3球、長方形プランターには16球、25ℓコンテナには20球を植え付けた。



露地植え



プランター植え

植え付けから花の見ごろが終わるまで、雨天の日を除いて毎朝灌水し、プランターの土が乾く場合は夕方にも灌水した。育成中の追肥は行わなかった。チューリップ品種全てに対して、植え付けから見頃を迎えるまでに要した日数を記録した。沖縄県の気候に適した品種を評価するため、生育の良否、咲き揃いおよび奇形の有無を総合して、◎・○・△・×の4段階で評価した。また栽培中の観察から、品種毎の生育特性の把握に努めた。

### 3. 結果

見ごろを迎えるまでの日数は品種毎に異なった。栽培した114品種のうち、生育期間中に全ての個体が枯死し、評価出来ない品種が6品種存在した。同一品種であっても、植え付け時期の気温や日照時間の違いから、植え付けから見頃を迎えるまでの日数には年度ごとにばらつきがあり、暖冬では期間が短縮、寒冬では延長される傾向にあった。品種にかかわらず、高温時の直射日光により土中水分が温められ、根がダメージを受けたことで植物の生育が止まり、花を咲かせずに枯死することがあった。

早咲き品種は、植え付けから見ごろを迎えるまでの期間が短いため、根が傷むような急な天候の変化に遭遇する確率が下がり、生存確率が上がること、背丈の低い品種が多いため冬の季節風で首が折れるリスクが低いこと等から、沖縄の気候条件に適していることが分った。一方で植え付けから見ごろを迎えるまでの期間が長い品種ほど、栽培期間中に枯死する確率が上がり、咲きそろうの評価が低くなり、背丈が高いために開花後の首折れが多い傾向にあった。



高温で枯死したチューリップ



根が傷んだ球根



風による花折れ



背丈の低い早咲き品種

複数年かけて多品種のチューリップ栽培を継続することにより、品種毎の特徴を把握し、植栽計画や植え付け後の管理へフィードバックした。

熱帯ドリームセンターでは、露地植えに栽培期間中のロスが少ない品種（主に早咲き品種）を多用し、イベント初日に見ごろを迎えるよう植え付け時期を調整した。ポット植え、プランター植えやコンテナ植えは、露地花壇の花が終わり、入替えが必要なタイミングで花を咲かせるようにした。ロスの多い品種を大型の鉢へ植え付けた場合、見苦しさから展示できない鉢が多くなるため、そのような品種は小型のポットに植え付けた。多くの課題を克服し、沖縄に適した栽培方法を検討することで、一面に咲きそろうチューリップ畑を安定して展示することが出来るようになった。

#### 4. 地域連携

チューリップは多くの沖縄県民にとって、幼い頃から知っている有名な花である一方、咲いている姿を見ることのほとんど無い、珍しい花だった。しかしながら多様な品種が既にあるため、環境に応じて品種の使い分けができること、大きい花が一斉に咲きそろう様も非常に美しいことから、緑化材料として優れた点も多い。そこで当財団の栽培ノウハウを共有し、緑化材料としてのチューリップを普及すること、地域の緑化を推進することを目的に、チューリップ植え付け体験を募集し、実施してきた。大人向けには H25 年度から、子供向けには H30 年度

からイベントを開始し、毎年行った。

活動に際して、チューリップの球根の生活サイクルおよび沖縄で育てるコツについて解説を行った。大人にはプランターへの土詰めから球根の植え付けおよび水かけまで、子供にはこちらで用意した植え付けスペースへの簡易な植え付けのみや、プランターへの植え付けのみと、年代に合わせた難易度の植え付け体験を行った。植え付けてもらったチューリップは、地域の市民が植え付けたことが分かるように明示して、熱帯ドリームセンターのチューリップフェア内で展示した。これまでに大人 375 人、こども 1,675 人が活動に参加した。参加者の満足度は非常に高く（大人向けで実施したアンケートでは 10 点満点中平均 9 点以上）、自身の植え付けた花が会場を彩る様子を見に、家族を連れて再来館する参加者も多く見られた。

令和 2 年度には本部町長からの呼びかけに応じ、本部町教育委員会と連携し、町内の小学校全 4 校でチューリップの栽培教室を実施した。球根をプレゼントし、各学校でプランターへの植え付けを行ってもらった。植付け後の管理も小学生たちが行い、自分たちの手で植物を育て、観察する良い機会となった。植え付けから一か月後には花が咲き、海洋博公園をから飛び出し、本部町内の各学校でチューリップが花を咲かせることが出来た。



熱帯ドリームセンターに咲くチューリップ



大人向けの体験



保育園・認定こども園の体験



小学校でのチューリップ栽培教室